

「中国・浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部地球工学科1年

(氏名) 種子島 佑希

(1) 授業

浙江大学に着いてからまず最初にクラス分けテストというものを行いました。私は1.5と下から2番目のクラスに所属していましたが、1年間中国語をきちんと履修すれば授業の内容についていくことは割と簡単でした。授業は全て中国語で行われる訳ですが、黒板に先生がピンインを書いてくれるので発音がわからないということはありませんでした。授業は全部で3つあり、語法、スピーキング、リスニングの三つでした。語法では京大で履修した事をもう一度やり直す感じで基礎固めができました。スピーキング、リスニングではネイティブの発音を聞く事になるのでかなり為になりました。全体的に授業に関しては素晴らしかったと思います。

(2) クラス間交流

私の所属していたクラスでは、日本人だけでなくタイ、韓国、インドネシアなど様々な国籍の人が授業を受けていました。私は1日目から国際交流を図ろうと積極的に話に行きました。(主に英語を用いてですが)このプログラムで1番の収穫は様々な国籍の人と友達になれたという事です。授業が始まってから2、3日ほど経った時クラスのみんなでご飯を食べにいく事になりました。その食事会で私は日本との違いに気付きました。とにかくみんなで話まくっているんです笑(これでもかかってくらい)それは私にとっては新鮮で楽しかったです。その次の日、自分とそのルームメイトと東大の人、タイの人4人で西湖を見に行きました。私以外のみんなはデジカメを持って写真をいっぱい撮っていました笑。西湖で自分は牛肉麺を食べましたが、日本のラーメンと違い油が少し多く感じました。その日はナイトショーを見に行きました。噴水を用いたショーで無料で見る事ができてとてもお得でした。そして最後の授業の日にはもう一度クラスの人たちとご飯を食べに行き色々話をしました。彼らは非常に優しく私は泣きそうになってしまい、そのままその会はお開きになりました。

(3) 大学間交流

このプログラムの日程では午前中に授業を受け午後になったら現地のボランティアの方々がいりいろな場所に案内してくれる事になってました。また午後が自由行動である日がいくつかありその時間を利用して大学内の友達と上海に行きました。大学の講義で実際に題材にされた場所をめぐる聖地巡礼(?)をしたり世界最大規模の博物館である上海博物館に行ったりしました。上海博物館は回ろうとすると1日かかってしまうほどの大きさで中国の歴史が詰まったものになっていました。私たちは特に青銅器を中心に見て様々な時代の青銅器を約3時間かけて全て見ました。

(4) まとめ

このプログラムに参加して心から良かったと思っています。中国の留学生の方々、同じ大学内の友人に感謝しています。